

1日目 9月29日(金) ポスター会場 第3・4研修室(3F)

ポスター1「リハビリテーション 症例①」

15:30-16:30

座長：寺田 佳世 (石川県リハビリテーションセンター)

P1-1 ロボットスーツHALを使用してADL動作・歩行改善が認められた肢帯型筋ジストロフィーの1症例

桐崎 弘樹 (国立病院機構医王病院 リハビリテーション科)

P1-2 重度精神遅滞を伴う福山型筋ジストロフィー患者へのカフアシスト導入経験
～カフトラック(吸気同調)機能の有効性～

竹部 博晃 (芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科)

P1-3 後天的に筋ジストロフィー(マニフェスティングキャリアー)を発症した女性高齢者の3年の経過を追って

大橋 利也 (順和会 山王病院 リハビリテーションセンター)

P1-4 短期集中リハビリテーション入院を繰り返し利用し、在宅生活状況の改善が得られたパーキンソン病の一例

佐々木洋平 (微風会 ビハーラ花の里病院 リハビリテーション科)

P1-5 人工呼吸器を装着している筋萎縮性側索硬化症患者の在宅での体位の実際

大石きよこ (東京都立神経病院)

P1-6 パーキンソン病に対しLSVT®BIGを実施し機能改善をみた一例

－Timed Up & Go testに着目して－

田沼 慎也 (国立病院機構医王病院 リハビリテーション科)

P1-7 傾聴を中心に関わったところ、活動範囲の拡大により自発的な活動意欲の向上がみられた筋萎縮性側索硬化症(ALS)の1症例

高橋 侑絵 (横浜旭中央総合病院)

ポスター2 「コミュニケーション」

15 : 30-16 : 30

座長：田中 優司（愛知教育大学 健康支援センター）

P2-1 新潟県における難病ITコミュニケーション支援講座の実施と展望

～自由記述アンケートに対するテキストマイニングからの考察～

渋谷 亮仁（国立病院機構西新潟中央病院 リハビリテーション科）

P2-2 神経難病患者へのAAC（拡大代替コミュニケーション手段）導入支援における当院の現状と課題（第2報）

堀田 糸子（北祐会 神経内科病院 リハビリテーション部）

P2-3 Totally Locked-in State（TLS）？ コミュニケーション手段の再獲得に向けて

～闇から光へ～

山本 直史（芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

P2-4 入院患者へのALSコミュニケーション支援チームの取り組み

河津 聡（大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター リハビリテーション科）

P2-5 レスパイト利用中のALS患者に対するコミュニケーションツール導入に向けた関わりから見えたこと

島川 朋美（松涛会 安岡病院 特殊疾患病棟）

P2-6 多系統萎縮症のコミュニケーション方法の検討

浅川 孝司（芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

P2-7 筋萎縮性側索硬化症患者に対する早期コミュニケーション支援の現状と課題

前田 香織（佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター）

ポスター3 「地域医療連携」

15 : 30-16 : 30

座長：尾角 裕美（国立病院機構金沢医療センター）

P3-1 難病に特化した訪問看護ステーションの現状と地域連携

矢吹 智美（芳英会 つばさ訪問看護ステーション）

P3-2 就労系障害福祉サービスの周知に関する研究

－難病相談・支援センターとの共同による地域シンポジウム開催の試み－

深津 玲子（国立障害者リハビリテーションセンター）

P3-3 全国の難病相談支援センターにおけるピア・サポートおよびピア・サポーター養成研修に関する実態調査（インタビュー調査）

松繁 卓哉（国立保健医療科学院）

- P3- 4 **神経難病訪問カンファレンスを通して得られた、難病医療拠点病院へのニーズの検討**
山田 恵 (岐阜大学大学院 医学系研究科 神経内科・老年学分野)
- P3- 5 **青森県における筋強直性ジストロフィー診療の現状と望ましい診療ネットワーク形成について**
大平 香織 (国立病院機構青森病院 地域医療連携室)
- P3- 6 **神経難病の緩和ケアに関する地域医療の課題と専門医療機関の取組みの方向性を考える
～訪問看護ステーション連絡会の声から～**
高津奈緒美 (東京都立神経病院 患者支援センター)

ポスター 4 「在宅療養」

15 : 30-16 : 30

座長：川田 明広 (東京都立神経病院)

- P4- 1 **岡山県におけるレスパイト入院の現状**
川野 公子 (岡山県難病医療連絡協議会)
- P4- 2 **神経難病患者の在宅看取りにおける突然死例の検討**
伊藤 英樹 (拓海会 神経内科クリニック)
- P4- 3 **トイレで排泄させるために有用だった簡易型移乗リフト「ささえ手」
～在宅療養中の多系統萎縮症に対する導入経験～**
中村 雅美 (浅木病院 訪問看護ステーション)
- P4- 4 **筋萎縮性側索硬化症の在宅看取りにおける難病拠点病院の役割**
駒井 清暢 (国立病院機構医王病院 神経内科)
- P4- 5 **多発性硬化症患者の支援のあり方 –外来しか接点のない患者の生活支援–**
池田 枝里 (セレス さっぽろ神経内科病院)
- P4- 6 **人工呼吸器使用中の難病患者と家族を支える地域包括ケア病棟の役割
～家族の夢を実現したレスパイト入院～**
鈴木留理子 (JA岐阜厚生連 揖斐厚生病院 地域包括ケア病棟)

ポスター5「ネットワーク①」

15:30-16:20

座長：野正 佳余（大阪難病医療情報センター）

- P5-1 出前式難病研修会が足掛かりとなった社会資源の少ない地域の難病ネットワークの活性化
堀田みゆき（岐阜大学医学部附属病院 難病医療連絡協議会）
- P5-2 筋萎縮性側索硬化症居住地分布とその推移から見た地域難病医療における当院の役割
駒井 清暢（国立病院機構医王病院 神経内科）
- P5-3 筋ジストロフィーの診療ネットワーク構築を目指した特定疾患医療受給者証交付状況に関する調査
高田 博仁（国立病院機構青森病院 神経内科）
- P5-4 行政との共同作業で行った難病医療ネットワーク構築活動 -山形県での試み-
菅野 真衣（国立病院機構山形病院 地域医療連携室）
- P5-5 慢性期人工呼吸器に関わる臨床工学技士のネットワークについて
藤寄 孝次（国立病院機構刀根山病院 医療工学機器管理室）

ポスター6「意思伝達」

15:30-16:20

座長：松尾 秀徳（国立病院機構長崎川棚医療センター）

- P6-1 iPad®を意思伝達装置として使用したALS症例の考察
西森 太郎（国立病院機構箱根病院）
- P6-2 意思伝達能力の低下した筋萎縮性側索硬化症は肺胸郭柔軟性やリハビリテーション実施時間が低下する
芝崎 伸彦（青葉会 狭山神経内科病院 リハビリテーション科）
- P6-3 長期療養患者の余暇生活を考える ～移動レベル別のQOLの検討～
松下 佑子（茜会 昭和病院 リハビリテーション部 作業療法課）
- P6-4 進行性の神経難病に対する多職種と連携したテクニカルエイドの実践
～遠位型ミオパチーの症例を通して～
東 ひとみ（石川県リハビリテーションセンター）
- P6-5 神経難病患者に携わる訪問リハスタッフへの支援
～東京都神経難病医療ネットワーク事業におけるコミュニケーション支援の経験から～
田中勇次郎（東京都医学総合研究所 難病ケア看護プロジェクト）

ポスター7 「就労支援」

15 : 30-16 : 10

座長：竹 邦子（富山県難病相談・支援センター）

P7- 1 難病患者の就労支援 –多機関連携による支援事例から–

志鎌 治子（難病患者就職サポーター）

P7- 2 難病患者の就労支援 –ソーシャルワークの視点から–

中本 富美（国立病院機構医王病院 医療福祉部 地域医療連携室）

P7- 3 シャルコー・マリー・トゥース病患者の生活・就労継続支援における作業療法士の関わり

中川 翔次（神奈川県総合リハビリテーションセンター 作業療法科）

P7- 4 就労相談事業に関する一つの提言

鍋岡 梓（堺市難病患者支援センター）

ポスター8 「意思決定支援」

16 : 30-17 : 10

座長：椿井富美恵（徳洲会東京本部 ALSケアセンター）

P8- 1 人工呼吸器装着後に筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断された患者への関わりを振り返る ～患者の「こうありたい」を大切に～

関屋 智子（金沢大学附属病院）

P8- 2 人工呼吸器装着長期療養ALS患者の終末期ケアにおける家族との関わり ～本人・家族と病のプロセスを共に歩む～

総谷 優子（有限会社総合医療企画 総合ケアプランセンター）

P8- 3 在宅介護の一つの在り方について

垣内 款（HKフロムハート）

P8- 4 呼吸筋麻痺に対して人工呼吸器を装着しないことを選択した筋萎縮性側索硬化症の療養者 の家族の思い

白子 千春（東京都立神経病院 患者支援センター）

ポスター9 「長期療養」

16:30-17:10

座長：古川 裕（国立病院機構石川病院）

- P9-1 ALSを含む長期臥床患者の尿路結石について死因への影響と、クエン酸製剤による予防の可能性
山本 真（大分協和病院 内科）
- P9-2 神経難病慢性期病床における食物繊維高含有流動食によるプレバイオティクス効果の検討
及川 美香（青葉会 狭山神経内科病院）
- P9-3 神経・筋疾患患者の下肢の苦痛の軽減を目指して
～下肢の浮腫に対し、マッサージを試みて～
江崎 勉（国立病院機構大牟田病院）
- P9-4 筋萎縮性側索硬化症患者の諸症状に関する多職種間情報共有を目指した診療記録からの後方視的検討 ～看護師の記載に着目して～
西川 陽子（三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻基盤看護学領域 実践基礎看護学）

ポスター10 「ネットワーク②」

16:30-17:10

座長：土井 静樹（国立病院機構北海道医療センター）

- P10-1 ALS患者の施設入居受入に関する現状と考察
橋本 もも（船橋総合病院）
- P10-2 難病医療コーディネーターに対する多職種のニーズ調査結果
岩木 三保（福岡県難病医療連絡協議会）
- P10-3 難病相談支援センターにおける医療的ケア児の親の自主グループ支援
中島美香子（石川県リハビリテーションセンター 石川県難病相談・支援センター）
- P10-4 取り下げ

ポスター11 「退院支援」

16 : 20-17 : 10

座長：酒井 陽子（国立病院機構七尾病院）

P11- 1 地域で暮らし続けたいと願う夫婦への支援 ～お互いに障害を抱えながら～

今泉 仁志（国立病院機構北陸病院 地域医療連携室）

P11- 2 神経難病患者に対する退院支援の状況と問題点に関する検討

西 絵理加（藤元総合病院 医療福祉相談室）

P11- 3 同行訪問事業を通じた神経筋難病患者の在宅医療支援に対する当院の現状と課題

奈古由美子（大阪大学大学院 医学系研究科 神経内科学）

P11- 4 急性期病院に10年以上入院しているALS患者の転帰を進めた一例

吉松 博志（恒心会 おぐら病院 内科病棟）

P11- 5 多系統萎縮症患者の人工呼吸器装着後初めての退院調整に取り組んで

林 雅樹（国立病院機構医王病院）

ポスター12 「療養実態調査」

16 : 20-17 : 10

座長：中山 優季（東京都医学総合研究所 難病ケア看護プロジェクト）

P12- 1 岡山市の小児慢性特定疾患児の現状評価

川野 公子（岡山市小児慢性特定疾患児童等相談支援センター・岡山県難病医療連絡協議会）

P12- 2 介護給付量の充足と障害状況の関連

柳屋 道子（日本ALS協会）

P12- 3 障がい者福祉からみた難病・小児慢性特定疾患の実態調査

高橋 美和（徳島大学病院 患者支援センター）

P12- 4 筋萎縮性側索硬化症の在宅医療。開始時の医療処置等の実態調査。紹介元医療機関による違いはあるのか？

藤田 拓司（拓海会 神経内科クリニック）

P12- 5 筋萎縮性側索硬化症の在宅医療。初期診療を担当した医療機関は、在宅医療を受けるALS患者の医療処置の内容に影響を与えるか？

藤田 拓司（拓海会 神経内科クリニック）

ポスター13 「リハビリテーション 症例②」

16 : 10-17 : 10

座長：北野 晃祐（村上華林堂病院）

P13- 1 パーキンソン患者の言語療法 ～在宅での実践と工夫～

有馬 直樹（芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

P13- 2 当院の医療保険下における訪問リハビリテーションの特徴と課題

加藤 俊光（芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

P13- 3 在宅ALS患者におけるBMI実用化に向けた取組

米田 正樹（公立八鹿病院 中央リハビリテーション科）

P13- 4 呼吸理学療法が筋萎縮性側索硬化症患者の胸郭拡張性の維持に寄与するか？

畠中 睦治（拓海会 神経内科クリニック）

P13- 5 在宅部門との連携にて意欲・ADL向上を認めた進行性核上性麻痺患者の一例
院内動作から自宅動作への反映を目指して

山本 匡（村上華林堂病院 リハビリテーション科）

P13- 6 福祉用具の使い方の工夫により、日常生活活動の維持に繋がったALS患者の一症例

古澤 麻衣（株式会社リハステージ 訪問看護ステーション リハビリ部門）

P13- 7 離島でのコミュニケーションエイド導入が成功した1症例
～日本作業療法士協会「IT機器レンタル事業」の活用例～

植田 友貴（西九州大学 リハビリテーション学部）